

メキシコ、470億ドルの フレキシブル・クレジットライン 要請に向けてIMFと話し合いへ



メキシコ・トルカ市のオートバイ組立ライン。今回提案されたIMFのクレジットラインは、メキシコが世界経済危機の影響を受けた際に役立つと期待される(写真: Newscom)

IMF サーベイ・オンライン
2009年4月1日

- メキシコ、IMFのフレキシブル・クレジットライン取極に関心: 最初の国に
- 予防的なクレジット、メキシコの優れた経済実績への信頼を高めることを期待
- メキシコの意向、G20 ロンドン世界危機対策サミットに先駆け発表

ドミニク・ストロスカーン国際通貨基金（IMF）専務理事は、IMFが先月設立した予防的なクレジットライン取極に対し、メキシコが要請する意向を示したことを歓迎すると共に、理事会の承認に向け早急に対応したいとの考えを明らかにした。

メキシコは、優れた経済実績を有する国を補強し世界危機の影響から保護する目的で設立されたフレキシブル・クレジットライン（FCL）の下、470億ドルの信用枠要請に向けてIMFと交渉を始めたことを明らかにした。

「IMF理事会は先週、フレキシブル・クレジットラインの設立を含む、IMFの融資制度の歴史的な改革を承認した。同会合の後、私は優れた経済実績を有するが世界危機の打撃を受ける可能性のある国々に対し、国際的な信頼を高める手段として、この新しいFCLを活用するよう呼びかけた」と、ストロスカーン専務理事は、メキシコ当局の発表に関するプレス声明の中で述べた。

「カルデロン大統領が昨日表明したように、本日、メキシコがこの呼びかけに応じ、FCLの取極に関心を示したことを発表すると共に、これを歓迎する。」

メキシコのアグスティン・カルステンズ財務大臣は、IMFのジョン・リップスキー筆頭副専務理事が同席したロンドンでの記者会見の中で、当面のところ、同国はこの信用枠を利用する予定は無く、この度のIMFへの要請はあくまでも「予防的ライン」であることを強調。とはいえ、同ファシリティによって「不安定な将来や市場

流動性の逼迫を招くといった事態に際し、(メキシコを)更に防御し」同国経済の経済危機のダメージからの回復に寄与することが期待される。

G20 サミット

このメキシコの意向表明は、世界経済危機対策が協議の焦点となる G20 ロンドンサミットに先駆け行われた。

IMF は、優れた経済実績を有する国へのある種の保険証書ともいえる FCL の設立を、IMF 融資制度改革の一部として既に発表していた。今回の融資制度の見直しの目的のひとつに、加盟国が抱える問題が手に負えなくなる前に、早急に IMF にアプローチができるような環境を整備することが挙げられており、この度の融資制度改革は、危機の影響が拡大している現状の中で、IMF が加盟国に対する支援をより迅速に提供することを可能とする。

「メキシコは、過去 10 年以上にわたり力強いマクロ経済のパフォーマンスを維持してきた。その特徴として、堅調な経済成長と低インフレ、財政および民間部門のバランスシートの継続的な強化、十分な資本基盤を備えた強固な銀行システムなどが挙げられる。そしてこれを支えていたのは、非常に力強い経済のファンダメンタルズと経済政策の枠組み、そして優れた経済政策を実施した実績である」とストロスカーン専務理事は述べた。

「FCL は、メキシコの経済政策を支え、この非常に困難な世界環境において信頼を高めることに大きく寄与できるだろう。私は総じて、メキシコがこの新しい制度の先駆者たるにふさわしいと確信しており、理事会の承認に向け早急に対応したいと考える」とストロスカーン氏は続けた。

危機の分岐点

専務理事は、G20 の首脳は世界的経済危機に際し岐路に立っており、適切な措置を講じることができるなら、来年には経済を回復させる機会がある、と述べた。

世界的経済危機が続く中、加盟国への支援の一環として IMF はその融資能力の向上を目指しており、融資提供のあり方の全面的な見直しを承認した。同見直しには、融資規模の拡大と融資条件を融資要請国の能力と環境に合わせたものとする、といったことが含まれている。

185 カ国の加盟国を有する IMF は、非譲許的融資の利用限度を 2 倍とするとともに、その伝統的な融資制度であるスタンド・バイ取極の強化や、融資条件の簡素化を図るとしている。低所得国を対象とした譲許的融資制度についての補完的見直しも順調に進んでいる。

世界経済危機の拡大を受け、海外資金が減少し、輸出が急減、商品価格が下落しているなど、新興市場並びに途上国を取り巻く環境は益々厳しくなっている。危機が長引くにつれ、益々多くの国の政策運営の余地が限られてくる。IMFによる大規模な融資が、世界規模で起こっているショックに起因する経済・社会的コストの緩衝材（クッション）となり得るとともに、支援が早期に要請されたならば、危機の本格化を防ぐことも可能である。

2009年の世界経済は、年平均ベースで0.5%から1%のマイナス成長になる見込みだが、この様な落ち込みは過去60年で初のことである。世界経済は、それでも来年には緩やかな回復に転じると予測されるが、これは金融情勢安定に向けた包括的政策や大規模な財政支援、与信状況の段階的な改善、米国住宅市場の底入れ、そして、原油やその他主な商品価格急落の影響を緩和させる効果（クッション効果）などが前提となっている。

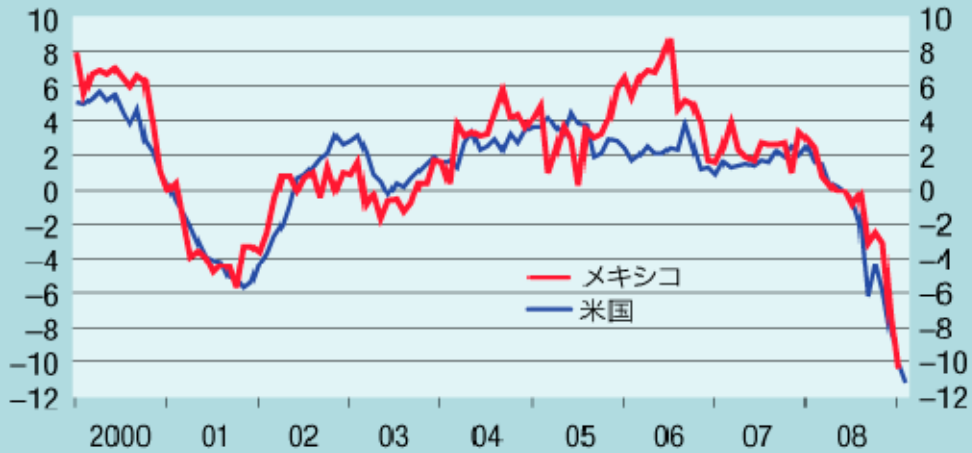
本稿へのご意見は、imfsurvey@imf.org まで。

図1

同じ軌跡

メキシコと米国の密接な関係を反映し、
両国の生産性は同じような動きを示している。

(工業生産、前年比、パーセント)



出所: Haver Analytics.

図2

急下落

メキシコ・ペソなど新興市場国通貨は
ここ数ヶ月で急落している。

(指標: 2008年1月1日を100とする)



出所: Bloomberg L.P.